



最前線

高岡古城公園そば、病床数70床の病院に全国から患者が集まる。脊椎・脊髄の専門病院として実績を重ね、31年目。県外からの患者が半数を超え「北陸新幹線開業後は長野や東京からの来院が増えていきます」と説明する。

手術件数は年間約1500例に上り、病床は満員の状態が続く。信頼を寄せてくれる患者のためを思い、最先端の医療機器を積極的に導入している。

2012年、全国で9番目に、手術中にCT画像を見ることが出来る「オーアーム」を導入。今年は磁気共鳴画像装置(MRI)を更新した。傷口の大きさが1、2センチ程度ですむ内視鏡手術や、患者の

▶24

高岡整志会病院長

川岸 利光さん (68)

脊椎手術の間口広く

体への負担が少ない手術用顕微鏡下手術を主とし、「手術や診断を安全・迅速に行い、患者さんの負担を減らすため、できる限りのことをします」と強調する。

痛みを最小限に

身体的な負担が少ない低侵襲の治療は、高齢者の受診が増える中で重要な要素である。整形外科と麻酔医が5

人ずつ所属しており、「この規模の病院では異例の麻酔医の多さ」だという。大学教授や准教授を経験したベテランも在籍し、「90歳を超える患者さんでも、心臓が悪い患者さんでも、きのうまで自力で歩いていた人ならば手術できます」と語る。

麻酔医の充実が手術の間口を広げるだけでなく、術後の痛みを和らげることに



脊椎・脊髄の治療について話す川岸さん
—高岡市大手町

かわきし・としみつ 富山市出身。弘前大医学部を卒業、弘前大整形外科講師、富山県立中央病院整形外科医長を経て、1998年に高岡整志会病院長に就任。日本腰痛学会理事。

ながる。以前は手術後の安静が求められたが、現在は身体機能を衰えさせないため早い時期から運動することがよいとされている。「痛みをうまく管理することで、手術直後からリハビリができるようになります」と説く。

「整形外科医の使命は、体のまひや痛みを早期に取り除くことです」と信条を語る。これまで持病や高齢を理由に手術をあきらめざるを得なかった人に対し、いかに安心できる治療を提供できるか。その使命を追い求めた結果が、病院の隅々まで反映されている。

「最高の医療には医師だけでなく、薬剤師や看護師、理学・作業療法士、事務職員まで、組織全員に高い技量が要求されます」。笑顔の中に、仕事にこだわり抜く「職人」の顔が見えた。

地域社会